

ナース★アクション全国代表者会議の報告

日 時：2023年12月5日（火） 17時15分～18時15分 ZOOM ミーティング

目 的：秋冬の運動の中間的な交流を行うことで、全国各地の取り組みの弾みとする。

司 会：全日本民医連理事 宮川喜与美さん

開会あいさつ

全日本民医連副会長 川上和美さん

次期診療報酬・介護報酬等トリプル改定の全容が見えてきていますが、私たちが望むような改定の内容からは程遠いものになっています。4年にもかかるコロナ禍の中でも、この国は、政権は何を学んできたのでしょうか。学運交でお話ししていただいた「上野千鶴子」さんは、「権利と制度は黙っては向こうから歩いてこない。要求しないと得られない。手に入れたと思ったものでさえ、知らないうちに足元から掘り崩されていく。監視し、参加し、たたかい続けなければ、今あるものも守ることはできない。無知は罪、黙っていたら同意を与えたことになる。」と発言されています。本当にそうだと思います。

秋以降の取り組みでは、看護処遇改善だけでなく、看護学生を含む学生の学費無償化に向けての署名、そして、子育てをしながらも安心して働き続けるために保育の勤務環境・処遇改善も一体的なものとして取り組んで来ています。医師不足や介護の問題もすべて私たち一人一人に関わる問題です。

私たちは、ケアの担い手として、ケアが大切にされる社会の実現に向けて現場から声を上げ、連帯を強め、さらなる大きなうねりを作っていきたいと思います。

リレートーク

◎県連看護委員長・看護学生委員長などから

【北海道東北地協】

①北海道・松井ひろみさん

現在取り組んでいる2つの署名は、4,000筆を超える状況です。勤医協と連携する急性期病院からは、返信用封筒に署名が入りきらず着払いで送ってくれたというエピソードがありました。今回、2日間に渡り、全ての看護職員の処遇改善、看護学生が経済的不安なく学び続けられる環境の整備について、北海道の地域医療を守る観点からも、北海道から国に声を上げてほしい、と訴え鈴木直道知事への要請書を提出しました。道議会6会派全てを回り、立憲民主・道民連合、北海道結志会、日本共産党3会派と懇談を行いました。



した。共通して「看護師の確保と養成は会派を超えた共通の課題」との発言がありました。続けて、道保健福祉部と懇談、記者クラブにて北海道知事へ要請した内容などについて記者発表を行い、朝日、読売、赤旗新聞の3社に取り上げられました。懇談では、道看護職員養成確保修学資金貸付金制度の内容を拡充し、道内の各地で働ける制度の改善、看護職養成校への北海道補助金の増額も要望しました。また、第8次道看護職員需給推計で、2025年に1,400名の看護師が不足する事について質問をしました。保健福祉部の方も、新聞記者の方もとても真剣に私たちの訴えを聞いてくれました。この行動により、新聞記事として多くの方に知ってもらうことができましたし、保健福祉部としての取り組みや困りごと、考えを率直に聞くこともできました。忙しい現場を守りながら行動をすることは簡単ではありませんが、聞いてくれる、形にしてくれる多くの協力者がいることを励みに、実現するまで取り組んでいこう、と強く思うことができました。

②福島・山縣由紀子さん

福島市にある私立高校4校に突然訪問して「学費無償化」の署名をお願いしました。依頼文とともにレターパックでの返送をお願いし、丁寧にお断りされる所もありましたが、看護学校への進学を希望している高校生も多いと言う理由で快く受けてくださった学校もあります。その後、もし生徒さんが無理でも先生方にお問い合わせできませんかと、お電話させていただいたところ、1校はすぐレターパックで届き、2校は教頭先生が直接持参してくださったり、お手紙が添えてあったりし、すぐにお礼の電話をかけました。11月末現在学費無償化1,655筆・看護処遇改善1,775筆です。この活動を通して、看護師を目指してくれる高校生が多くなることを願います。

【北関東甲信越地協】

③新潟・樋口美智子さん

新潟県内の118病院に署名のお願いの文章を添えて署名用紙を4枚づつ返信用の封筒も入れて郵送したところ「県看護協会が取り組んでいるような誤解を与える」と会長から電話があり、お詫びの手紙を改めて全てに郵送しました。「ああこれで新潟県の署名行動は終了してしまった」と思いましたが、再度の手紙を出

してから署名用紙は返ってくるようになりました。12月4日現在、公立5・公的4・民間16の25病院から署名用紙が寄せられ、カラーコピーをして365筆集めて頂いた公的病院もあり、とても感激しています。県内の病院からは合計942筆 高等教育無償化の署名は876筆届きました。看護職員全員に光が届くようにと、同じ思いを感じ取れ励まされました。合計、処遇改善2,731筆、無償化2,632筆と春の取り組みでは2,000筆でしたが、秋の署名は目標3,000筆に届きそうです。

④山梨・村松裕子さん【県連事務局長】

私からは、日常の私たち民医連の看護実践こそがナースアクションそのものであるということをお話させていただきたいと思います。今年の3月に県看護協会会長に、看護師処遇改善の署名の協力をお願いし「在宅医療を支える訪問看護師や施設で働く看護師も、分断されることなく同じようにその活躍が評価されるべき」と快諾の言葉を頂きました。会長は保健師で以前から継続看護を推進する立場で、私たち民医連とは深いつながりがある方です。胃壊造設の普及啓発活動を共にしていただいたり、県内の看護師に向けた退院支援ツールを作成する際にも甲府共立病院の退院支援アセスメントツールを取り入れるなど、私たち民医連の看護実践を信頼し、在宅療養に関わる看護研究など一緒にやってきた仲間でもあります。また、看護研究仲間の中には現在、看護大学で学部長として活躍している人もいます。大学訪問を行い「看護職員の処遇改善」と「高等教育無償化」の署名のお願いをし「大学でも経済的理由で看護の道をあきらめた人がいます。看護職を目指した大切な一人一人の学生の学ぶ場を保障するために協力します」と心強い言葉をいただきました。

民医連が県内において先駆けて在宅医療や継続看護を推進してきた根っこには、「患者の立場に立つ」「患者の要求から出発する」「患者と共にたたかう」まさに「民医連看護の目指す看護とその基本となるもの」の日常的な実践があります。その実践からつながった信頼と絆が、歴史を超えて今、私たちの運動を支えてくれています。これはとても素敵なことだと思うのです。

このような活動の中で、同期の元MSW議員が質問に立つ県議会の傍聴に参加しました。コロナ禍で電気料金が支払えず自宅で凍死された事例を基に「いのちや暮らしを守ることが第一義的課題ではないか」との質問に対して、全く応えようとしない県知事の態度に私は涙があふれそうになりました。「私たちは知らなければいけない。議会でいのちや暮らしより富裕層のための環境整備が優先されている」看護委員会でそう報告すると、「看護師長研修で議会の傍聴に行く」ことを企画していただき、既に2回の傍聴に参加して、

師長たちは自分たちが発信すること、それは科学的データや現場の声が一番力になることを知り動き出しています。

山梨も決して署名数が上がってきているわけではありませんし、すぐには結果が出ないかもしれませんが。他県の皆様！組織的に協力はできなくても誰かの心には確実に響いているはずです。数字に表れなくても大事なことは大事だと引き続き声をあげていきましょう。それが私たちのナースアクションです。

【関東地協】⑤東京・伊藤淳子さん

東京は、10月と11月にアクションを起こしました。10・19「いのちを守る総行動」の前に看護部長さんや看護委員を中心に日比谷野音の外で署名を集めました。処遇改善：127筆、高等教育無償化：118筆集まりました。11月は大塚駅前で、看護委員と東京民医連事務局メンバー総勢30名で、署名を集めました。2人ペアとなり、約1時間行動しましたが、初めて署名を集める看護委員もおり「どんな風に声掛けしたら良いかわかんなかったけど、アツと言う間に沢山の署名が集まった」「看護師さん大変だものね！と逆に励まされた」など、青空の元、楽しく元気にアピールすることが出来ました。処遇改善：104筆、無償化：90筆が集まりました。

【東海北陸地協】⑥石川・大島麻衣子さん

団体署名を県内全ての医療機関・介護事業所・訪問看護ステーション1,800カ所に発送し、161事業所から賛同が集まり、10月に県医療対策課課長と懇談を行いました。県は、看護師不足については認識していましたが、人材派遣会社で一人70万～100万円かかることは把握していませんでした。病院長宛だと看護管理者に届きにくいことが判り、10月には看護代表者宛に再度県内の医療・介護事業所全てに個人署名を送付し、ほぼアポなしで病院訪問をして直接伝えるようにしています。済生会病院では看護部長と副部長の4人で出迎えてくれ、「とても大事なことですね」と、11月半ばに各180名ずつの署名が返送されてきました。アポなしでも皆さん快く出迎えてくれ、きちんと話を聞いてくれ、声をあげることは大事だと言ってくれます。訪問看護ステーションの所長さんが直接病院まで署名を届けてくれるなど嬉しい反応が広がっています。看護奨学生会議では、学生から「授業料が負担になっていて食費や光熱費を節約している」という切実な声も聴きました。そんな学生自らが学校で訴えて署名を集めてくれたので、現在、看護学校への訪問も始めています。労働組合や健康友の会とも共同で取り組み、保育園でも声をかけています。城北病院では社保委員会として、全職員に署名の訴えをして、医局からたくさんの署名が届きました。今度は医学生にもお願いする予定です。まわりの人達に声をかけ、要求を形にして

いくことで、少しでも状況が改善するように、がんばっていききたいと思います。

【近畿地協】⑦和歌山・和泉李果さん

看護部としてどう取り組むかについて、部署で再度取り組むことを前提としながら、国民にどう伝えるかを看護委員会、師長会議で議論しました。定期的にワクチン接種（コロナ・インフル）を行っており、日により100人前後の患者さんが来院するので、短時間で集中的に署名に取り組むことを師長会議で提案し決定。ワクチン接種が10、11月とあったので、署名を行いなさん快く協力してくれました。また県連理事会で報告し、診療所や訪問看護等でも一緒に行動してもらうことをお願いし、スタンディングを決定。短時間（15分）でしたが、病院、各診療所・訪問看護でも事業所前で一斉スタンディングをしました。和歌山城で行われる「生協まつり」でも、健康チェックをしながら署名活動行い、たくさんの人出で署名用紙をもっと持っていけばよかったという感想が出されました。

【中国四国地協】⑧徳島・野上由起子さん

県看護協会会長に訴え署名活動のお願いをし、会長から医療機関、訪問看護ステーションに署名用紙を配りますねと言ってもらえたので、返信用封筒と署名用紙を渡してきました。直後で県訪問看護連絡協議会の方とも懇談しました。特に在宅系には評価がされていない現状なので切実に私たちの思いを理解してくれたようでした。県看護協会支部の交流会があるのでその看護師処遇改善と看護学生の学費無償化についての請願署名の訴えをさせてほしいとお願いしご了承をいただき、また県内の訪問看護S Tにも協力要請の連絡をしていただけることになりました。この時に、一人の方から「健生病院さんはいつも署名活動などを積極的にしていただき心強く思っています。」と言ってくれました。看護協会の方からこのような言葉が聞けるとは思っていなかったのが驚きましたが、嬉しく思いました。11月26日には若手も含め法人内職員24名が参加し駅前宣伝行動もしました。

【九州沖縄地協】⑨熊本・中山奈央子さん

共同組織月間と同時に友の会会員、患者、利用者へも呼び掛けました。共同組織交流集会上では看護処遇改善手当の目的や現状と課題を分かりやすく伝え、会場からは医療の現場の状況が良く分かった。知らなかった。協力したいという声が上がりました。9月初旬には県議会議員と懇談。「看護の現場の声をこうやって聴く機会はなく、大変勉強になった！医療や介護はなくてはならないものです…私たちも頑張ります！」との声をいただきました。高等教育無償化では、福岡高裁であった『生活保護廃止処分取消請求訴訟事件』いわゆる「長洲事件」の裁判にナース☆アクション運動の一環として支援継続しています。先月「くまもと学

生支援プロジェクト」主催の13回目となる物資無料配布会は看護学校の敷地内をお借りして開催。看護学生のボランティア20名の参加もあり、近隣の専門学校や大学から約120名の学生さんが来場しました。「物価高騰の影響で食費も大変！学費無償化賛成！」との声があり物資をたくさん抱えた学生さんの笑顔を見ることができました。看護師のなり手が少なく看護師が足りない今、お金の心配なく看護師になるためには、給付型奨学金の拡充・看護学校の学費無償化が必要だと実感しました。

◎看護学校から

【東葛看護】⑩東京・児玉宏行さん【事務長】

コロナ禍に入って学ぶ環境が脅かされ、本校学生へのアンケート調査や全国調査にも協力し、また全日本民医連の看護学生Web交流集会上に参加する中で、学生緊急給付金の支給や国試追試を求める声を国に対して発してきました。しかしながらこの間の調査では5類に移行しても尚更厳しい学生の実態が浮き彫りとなっています。本校では先輩から受け継いできた運動もありますが、先日学生自治会総会があり、そこで選出された新役員が高等教育無償化の署名をその場で訴えて集めました。この間の進め方としては「知っていますか？学ぶ権利」をテーマとした愛知県立大学の久保田貢先生の学習を、取り組みの推進力としています。

【近畿看護】⑪京都・山口咲子さん【副学長】

京都民医連の看護師・介護士・医師との11.11一斉行動（Care Workers&Nurse+Doctor PROJECT）には、教員と学生8名が参加し署名行動とマイクで訴えました。当日元気に笑顔で参加していた1年生からは、「めっちゃ行ってよかった。高校生が何人か書いてくれた！」と感想が聞けました。マイクで発言した2年生や3年生は、「お金がないから野菜が買えない」「水道代が高くてお風呂のお湯をためられない」など切実な声を訴えていました。そういった看護学生の実情を知り、署名した方からは、「こんなにお金がかかると思っていなかった」「看護学生が大変だとわかった」「自分も病院にかかっているから、素敵な看護師さんになってほしい」等の励ましの声をその場でいただきました。そこに参加した教員は、学内に戻った後、参加できなかった学生や教員に向けて、ボードに活動の様子を張り出してくれました。さらに、今年度は国や府からの補助金など支援が全くない中で、自治会要求として食糧支援の声が上がりました。県連理事会に学生が出向き、看護学生の現状と生活支援の訴えをしました。学生の生の声は、地域にも民医連の他職種にも伝わり、カンパや物資など学校に届き支援の輪が広がっています。学生は、学び体験する中で自分事に引き寄せ行動しています。2月の京都市長選挙でも要求実現に向け、選挙権の行使につなげていきたいと考えています。

◎院内保育所から

【保育世話人会】⑫広島・長谷川清美さん

院内保育所は医療現場で働く職員を支えるために生まれた保育所です。民医連では多くの院所の歴史とともに院内保育所が存在し、時代を経て閉園した園もありますし、認可や委託と運営スタイルを変更した園もありますが、現在ある院内保育所の多くが認可外保育園として運営しています。このコロナ禍において医療の最前線で奮闘されていた医療現場の職員の方々とともに後方支援として各地で闘ってきた報告をたくさん受けています。休校中の学童保育、休園している保育園に通う園児の保育等も院内保育所特有の臨機応変のスタイルで支援してきた仲間の奮闘を誇らしく感じています。昨今、保育情勢はめまぐるしく変化してきており「子ども・子育て支援新制度」「新子育て安心プラン」等が公表され、幼児教育・保育の無償化に併せて保育士の質の向上をめざした処遇改善や、待機児解消のためのプラン等が次々と行われてきているところですが、早急すぎる改革は「保育」を営利目的のサービス事業とするケースも垣間見られ、逆に質の低下につながりかねない現状もあり、保育士不足はさらに深刻になる一方となっているのではないかと感じています。認可と違い、多くの認可外保育とされる院内保育所で保育されている子どもたちには、運営費どころか全くの補助也没有。同時に国が進めている保育士の処遇改善も何ら無縁のものとなっていて、さらに格差が進んでいき、いずれ院内保育所で働く保育士がいなくなるのではないかと危惧しています。今般、ナース★アクションとして一緒に運動できることをとても嬉しく思っています。

閉会あいさつ

全日本民医連理事 井澤有里美さん

みなさん、今日の会議の目的は、秋冬の運動の交流を行うことで全国各地の取り組みの弾みとする、です。発言でもあったように全国の取り組みから知恵と工夫を取り入れ一歩踏み出すと、思いがけず大きな反応があるなど処遇改善の請願は多くの看護師や地域のみなさんの要求だと実感できるものとなっています。また、処遇改善と共に高等教育無償化の署名をすることで看護師の未来につながる運動となり、また誰もが教育を受けられることは憲法で認められた学ぶ権利を守る運動となる広がりをみせました。山梨の村松さんからの報告でもあったように、今回の処遇改善の取り組みは、ほかのケア労働者の処遇改善につながるチャンスになっていると思います。まさにナースアクションの勢いが介護ウエーブや医師のドクターズデモンストレーションを成功させるための流れにつながる原動力となっています。このアクションをより幅広く、柔軟に、そして楽しく続けて国会へ私たちの思いを届けましょう。

そして「ケア最優先の社会」こそ、今の情勢で一番求められていることです。「イスラエルとパレスチナ・ガザ地区での武力行為の即時停止を求める」会長声明や、ウクライナでの戦争など武力で人のいのちは守れないことが明白な中、ケア最優先の社会は全世界で求められていることです。誰のいのちも殺さない社会にするためにも、私たちケア労働者が最優先で活躍することはみなが望む社会です。ぜひこの声を広げてください。

以上